

麻郷小学校 特別支援教育だより R5.6.15



よりよいサポートのために!



子どもの発達特性は、3歳前後から「気になる」部分が見られ、保護者が育児の難しさを感じたり、園や学校から気付きを伝えられたりするケースが多いのではないのでしょうか。「なぜ、こんな行動をするのだろう」と落ち着いて見取り、気付きを相談につなげることで、本人の困り感を理解していきましょう。

早期に診断を受け
た方がいいのでは
しょうか?

早いうちから子どもの特性を理解し、適切な対応をすることは、子どもの心を安定させ、能力を伸ばすことにつながります。

発達特性に対して、なぜ周囲の
理解が必要なの
でしょうか?

集団生活や学習場面において多くの困難を経験すると、強いストレスを感じます。さらに周りから非難され続けると、心のバランスを崩し、二次障害を起こすことがあります。二次障害は問題を複雑にします。



具体的にどのような
サポートをすれば
いいのでしょうか?

まずは、子どもの行動を観察しましょう。対応のヒントは、子どもの行動にあります。観察による気付きを医療機関などに相談することで、適切な対応についてアドバイスをもらうこともできます。それらの情報と学校での気付きを共有し、具体的に何ができるかを話し合しましょう。



この通信では、学校や家庭の中で生じる具体的な困り感に対して、サポートのための6つのヒントを提案したいと思います。基本的な対応ポイントを参考に、それぞれの子どもに合う対応を見つけていきましょう。

次号では、【ケース1 忘れものが多い】について考えます。